

お茶の水女子大学での半年

シン・アラン (韓国・啓明大学)

私はお茶の水女子大学には2回目、今年の3月31日に来ました。2年前にはお茶の水日本語サマープログラム第1回のプログラム参加者で、今年は交換留学生で来て、いろいろなプログラムにボランティアとして参加してきました。

それで、私は交換留学生でお茶の水女子大学で習ったこと、感じたことと、ボランティアとして感じたことのように、二つに分けて書こうと思います。

私はグローバル文化学環の所属ですが、留学生向けの授業と、グローバル文化学環の授業、それ以外の学部の授業も受講しました。特に、私の印象に残ったのは森山先生の「言語と文化」と、宮内先生の「民俗学」でした。このような授業では、韓国では習われなかったことを習うことができ、嬉しかったです。

「言語と文化」では日本、韓国、中国、三国の関係回復のため、多少敏感なテーマである歴史問題について、お互いに意見を交換しました。全ての日本人が韓国人を嫌がっていることではないと、知っていましたが、歴史問題についてはどう思っているのか、個人的には興味がありましたので、この授業を受講して良かったと思います。日本と韓国、中国の関係回復の可能性が見られて、自らできることならしようと肝に刻みました。

「民俗学」の授業では昔の日本の文化について習いました。特に、教科書や本にはなかった本物の日本を習うことができ興味深かった授業でした。地域によって納豆や鮭の消費量の違いや、雑煮の有無、昔の日本の衣文化、食文化、住文化のようなことを習いました。授業の単語は難しく、先生の話すスピードも早くて、方言混じりの言葉も多くて難しかったんですが、たからこそ自分の日本語能力を上げることに役に立ったと思います。



私は本人と仲良くなりたくて、いろいろなイベントにも参加しました。一番最近参加したのは、OIC 料理会でありました。お茶大生と、留学生が協力して料理を作りながら話し合ったり、一緒に食べながら遊ぶいいイベントでした。お茶大生はみんな親切で、優しくて、まだ日本語が下手な私も早く仲良くなりました。



これからはボランティアとして私が感じたことについて書きます。今私はお茶の水日本語サマープログラム、国際交流の夕べのボランティアをしています。あるイベントに参加して、当たりまえだと思った物事が、実は人々の努力の上でできたことだと、今度のボランティアを通じて気づきました。また、私が2年前に来た時に、私たちのために色々準備してくれた人に感謝の心を持ちながら、私も彼女たちのようにしようと思います。

授業を取りながら学ぶ言語と、イベントなどを準備しながら学ぶ言語は異なります。自分の言語力を高めるためにも、ボランティアなどの色々な経験をした方がいいと思います。そのためにも、これからも多様な経験をして、色々なことを感じたり、学んだり、自分の言語力も高めようと思います。